

好きなゴルフを続けたい。 その思いこそが「元気のカ」

プロゴルファー 須貝昇さん



全英シニアオープンで日本人として初優勝の快挙を遂げた後、55歳で食道ガンの大手術。リハビリとトレーニングを経て見事復活したプロゴルファー須貝昇さん。その闘志あふれる姿勢に、強く励まされる人は数多い。明るくポジティブな生き方と、日々の「元気」の源泉について伺った。

攻

めのゴルフスタイルで定評があるプロゴルファーの須貝昇さん。「プロの道を歩み出した時期は意外に遅い。「スポーツへの道を考えていた19歳の時、知人に勧められたのがゴルフ。コースに同行し、あんな小さな穴に数回のショットでボールが入るなんて凄いと。翌日には研修生になろうと決めていました」

キャディを務めながら練習に励み、25歳でプロに。以来、着実な歩みを重ねてきたかのようだが、実は越えてきたハードルは決して少なくはない。

「シニアの出場条件である50歳になるまでの5年は狭間でしたね。クラブの素材が木から金属に移行していった頃で、打つ感覚も変わった。自分のゴルフがわからなくなり、1年間ゴルフを離れた時もありました」

その闇を抜けると、須貝さんのゴルフは一気に開花する。シニアプロに転身した2000年に全英シニアオープンに初出場。3度目の挑戦となった2002年には、4日間の競技期間中首位をキープ



尊敬するジャック・ニコラスの顔を背に語る須貝プロ。

し続け、優勝の快挙を果たした。「強風と深いブッシュに悩まされる難しいコースでした。でも僕だけじゃなく皆が難しいんだ、自分に負けてはいけな」と。優勝が決まった時は、自分でもビックリしましたよ」

そ

の後は欧州ツアーを転戦する日々が続いた。ところが55歳の時、食道ガンが発覚。食道と甲状腺、直腸の4分の1を切除する大手術を受ける。「手術前は居直って、肉やウナギや食べたいものをどんどん食べましたね。麻酔から覚めかけた時の第一声は「ハラ減った」だったらしいです(笑)」

術後はただちにリハビリを開始した。マネジャーである奥様との二人三脚で、食事を摂る練習から始めて、筋力トレーニング、点滴台を持つての階段昇降。退院すれば今度は街を歩く、走る……。「もう一度ゴルフをしたいという一心。体重が落ち、ベニヤ板みたいだった体が、食べることに、トレーニングすることでどんどん戻っていくのが励みでした」

手術の5カ月後には早くも国内シニア大会に参戦した。ツアーを重ねることに持ち前の攻めのゴルフが復活。国内で活躍する今も、常に海外メジャー大会を意識した体作りを欠かさない。

そのポジティブな姿勢で多くの人を勇気づける、須貝さんの元気の源は……? 「やっぱり、大好きなゴルフですね」

ゴ

ルフには終わりがないと須貝さんは言う。難度の高いコースにはねかえされては、また立ち向かう。静かな動きの中に闘志が燃え盛る。それが、おもしろい。

「メンタルな面でも人間を大きくしてくれるスポーツ。ゴルフのためなら、たいていことは乗り越えられます」

朗らかな笑顔の底に熱い思いがたぎる。



2002年7月28日、全英シニアオープンにて優勝し、トロフィーを手にする須貝プロ。アマチュア部門第1位の選手とも握手。
by David Cannon Getty Image Sport

Noboru Sugai

1949年10月16日生まれ。レギュラーツアー時代に通算3勝を挙げた後、2000年にシニア入り。02年全英シニアオープンで日本人初となる海外メジャーツアーでの優勝を成し遂げる。05年に食道ガンの大手術を行い、克服。現在は国内シニアツアーで活躍中。

撮影協力

●ジャック・ニコラス
ゴルフセンター大森

東京都大田区大森東3-28-1
TEL.03-3298-5211
http://www.jngolf.jp